

## 年頭所感（令和3年元旦）

新年あけましておめでとうございます。今年の日下の目標は新規事業と新卒採用です。この一、二年の中高年採用はほぼほぼ失敗しました。これを機に世代間格差の解消につとめます。中高年の場合は入社した時が最高地点、その後は下降線を辿ることになります。来た時は内股、猫背、半年後はがに股、肩で風を切る、こんな人を多く見かけたものです。どうしても垢やあくは抜けず我を抑えることができないため周囲との亀裂を生みます。伸びしろがなくても慣れることだけは早く本人が無意識のうちにあたかも取締役の態度へと変貌をとげてしまいます。そのため中高年（シニア）特別枠での採用にして徹底した自己管理につとめていただきます。次に新卒採用ですが寺院内ゲストハウスに居住される場合は無料貸与となります。徒歩で10分のところには寺院専用のワンルームがございます。こちらは月々2万円です。内定通知書を未だいただけず就職活動中、または就職浪人が決定的な方には修行目的のための救済をさせていただきます。これまでも当院では刑務所から出所された方、うつ病患者の受け入れも積極的に行ってきた経緯があります。そのため家宝、家財道具、電化製品等ありとあらゆるものを盗難されています。衣食住すべてを面倒見させていただきました。僧侶の人たちには大衣、袈裟、仏具、雲水（修行僧）用品を授与しております。それでもものになる人は少ないのが現実です。ただしこれはわたしなりの仏法へのささやかな報恩行です。

次に新規事業ですが今年は個人事業主として始めて見事に失敗した遺体搬送業務を法人として再挑戦することになりました。ほぼ準備は整いつつあります。それと越前そば工場の建設（仮設）も考えております。こちら準備中です。これからは僧侶も副業、副業が僧侶の時代です。複業時代。令和のお寺は副業があるか、実社会経験者でないと務まらなくなります。兼職でも成り立たず経営者の道を模索していくことになるでしょう。葬式仏教衰退、檀家制度崩壊、墓地運営全滅時代、今年はいよいよ淘汰再編に入るかと思えます。これは私の持論ですが出家得度の時期ですが理想的には19歳まで（釈迦の出家は29歳一説には19歳 私は19歳説の方が正しいかと）が好ましいかと。社会経験を経て29歳もありかと。どんなにか遅くとも39歳までが限度です。何故なら未だかつて40歳以上で出家したお坊さんで立派な人を一度も見かけたことがありません。そして身に付いていて備わった人もなかなかいません。職人さんやスポーツ選手と同じです。ですからどうしてもお坊さんになりたいのであれば60歳定年退職まで一生懸命に汗して働きそれからしておきなさいと言いたい。そして僧侶にもらった暁にはお布施は経費を除いてすべて世の中にあるいは寺院に寄付せよと言いたい。そのくらいの覚悟なくして僧侶になる意味などありません。私の弟子のひとりにそのような模範生がいます。一流企業を定年退職してこれからはお坊さんとして生きていきたい。

その代わりお布施はお寺に寄付します。と、あるいは私の尊敬する数少ない尼僧様になぜ出家をされたのか？その動機をお聞きしたことがあります。彼女曰く「私は子どものときから家庭的にも逆境でずっと貧乏でした。ですから一生ひとりで一生貧乏な生活をしていこうと決められそこで出家の覚悟ができました。」と申されました。出家とは生半可な気持ちではしてはいけないものと教えていただきました。彼女は65歳まで働き年金だけで生活をして生きたいので法務はすべてボランティアをと切望しています。

令和の時代を生きていく僧侶像とはどんな世界になっていくのか。お寺はどうしていくべきなのか。宗派はどうしていくべきなのか。

あなたも新しい時代の仏教をともにつくっていきませんか？虎穴に入らば虎子を得ず

峰の色 溪の響きもみなながら 我が釈迦牟尼の声と姿と 道元禅師

弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば ひとえに親鸞一人が為なりけり

令和3年1月2日  
見性院住職 橋本英樹